

海辺にて



河井 祥子

くなってしまうということですね…

☆ ヘリコプターから

海辺の生物をヘリコプターから見てもみましょう。この辺はリアス式海岸なので生物が住みやすいのです。岩礁のしよら違いにより分布状態も異なってきます。

もう一つ、大きい見方をしてみましょう。ウニ、ヒトデ、ナマコ等のように、何万年も前と同じように現在も生き続けているものもあります。その逆に、何万年もかかって少しずつ変化、進化していったものもあります。

防波堤にたくさんの「アラレタマキビ」という白い小指位の貝がついてたでしょう。今は、大潮で潮がひいていますけれど、満潮になってもほとんどあそこまで海水はいかないんですよ。この貝は、陸に住む「かたつむ

磯いその香、その香に引きつけられるよ

うに、今日は満月の大潮、葉山の海岸へ……。

けれども今日の磯はいつもと少々違うのです。潮がひいているというだけの違いではないのです。私たちのグループのリーダーは、天皇陛下の生物のお話相手でいらっしやり、カニ博士として世界的に有名な酒井恒先生なので

す。

では、先生のイントロダクションからお聞かせいたしましょう。

「ここ葉山の海にどの位の生物が生息しているとおもいますか……。それは、天文学的数字と言えるほど、たくさんさんの生き物が、ここで生活しているのです。だから、この海を埋め立ててしまえば、その生物の住むところがな

り”の仲間なんです。こうして、海の生物がだんだんと陸へあがっていくのです。

だから人間は、磯の香りがなつかしいのですよ。

☆ どこに顔があるの？

“イソギンチャク”を見てごらん下さい。アネモネの花のようでしょう。さ

あ、“イソギンチャク”の口はどこでしょう？ 鼻は？ あら、一体どこにあるのでしょうか。海綿の口は？ 困りましたね。どれが一匹なのでしょう。

ほんとうにわからないことだらけ。

— 岩を持ち上げて見ましょう。上より下の方にたくさんいるようですね。それは直射日光を避けて影にかくれる性質があるのだそうです。

お話をうかがっていないながら、一歩一歩岩礁の方へ。今まで “ムラサキウ

ニ” “アメフラシ” 位しかこの海には住んでいないと思っていたのに。いるわいるわ岩について白くみみずのぬけがらのようなかたいもの。それも生きものなのです。その名は “カンザシゴカイ”、その名前を聞いて、皆顔を合わせる。どう見ても “かんざし……” という名前のつくような物ではない。

☆ 夜の磯

“カンザシゴカイ”は夜になると、そのみみずのぬけがらの頭のような所から、角を出すのです。その角の先には、かんざしが……。

夜は貝たちの世界。夜露にぬれた岩についた海藻を、長い舌を出して食べ物をあさっているものもあります。

“ヒザラガイ”の仲間もその一つです。また、“ヨメガカサ”と呼ばれる“ウノアシ”に似た貝も、自分の体長の五

・五倍もある舌を出してエサを食べるのです。自分で動いてエサを探しに外出するものもあります。そして朝になると、また、もとの所へ戻ってくるのです。けれどもちょっと遠出をしすぎたり、迷子になったりして、中には、戻ってこれないものもいるそうです。

☆ 子どもたち

ウニの子どもたち、一匹のウニからいったい何匹産まれるのでしょうか。

その数は、全人類の数と同じ位の卵を産むのだそうです。それがプランクトンと呼ばれ海に泳ぎ出ていくのです。そしてまた、もとの場所に戻ってくるものもあります。

卵をみつめました。ゼリー状の “カザガイ” の卵、この一立方センチメー

トル位の中にやはり無数の卵が動いているのです。

☆ なかよし

「ウミノトラノオ」は、海藻の仲間なのでしよう。岩にびったりとくっついて、波にゆらゆらとゆらいでいます。それを先生は一つ離して見せてくださいました。するとその中から、小さな小さな一センチメートル（一番大きいものでこの位だそうですね）位のカニが出てきました。「もう一匹いるはずなんだけれど」と探していらっしゃる。「ウミトラノオ」の根元には、トラノオガニが住んでいるのです。たいいの場合仲よく二匹住んでいるのです。

☆ かくれんぼ

「ヨロイイソギンチャク」あまりきれいなイソギンチャクではありません

ん。砂や貝がらを体一杯に着けて。ちょっと見るとあまりないようですが、よく見るとすぐに十―二十四位はあるのです。いたずらをしてさわると、びゅつと水を出して引込んでしまいました。

「イソクズカニ」は、たくさん海藻を背中につけています。これは、全部自分でつけるのだそうですね。普通のカニは、一方にしかはさみが動かないのですが、このカニはとても器用で、背中ではえている毛につけるのです。また、切り口から「のり」のでる海藻を知っていて着けるといふ方法もとるのです。

しかしこの護身術も、ほとんど人間に對してのみ有効なのだそうですね。人間以外の生物は視覚以外の器官が発達

しているためのようです。

まだまだたくさん生物がそれぞれ特徴を持って生活している海です。その海と、また、私たちのふるさとの海を大切にしていかなければなりません。

昨今、海の汚染が問題になっていきます。しかし、酒井先生はおっしゃいました。「ヘドロの中にも、拡大してみると、そこに生命の美しさを、見ることができるのですよ」と。

（お茶の水幼稚園）